

### NHKの朝ドラで、明治時代の、龍頭が滝までの距離を感じてみる

現在、NHKの朝の連続テレビ小説『ばけばけ』が放映されています。ラフカディオ・ハーンとセツの物語ですが、この時代には、松江から龍頭が滝に行くには、どれくらい時間がかかったのか、ハーンとセツの熊本への旅を通して、考えてみたいと思います。

明治23(1890)年8月30日、松江に到着したハーンは、松江尋常中学校・師範学校で教鞭をとっていましたが、熊本の第五高等中学校に赴任するために、翌年11月15日に、セツとその家族を伴い松江大橋の西棧橋から、小蒸気(小型の蒸気船)に乗り込み、午前9時に宍道に向けて出発します。松江・宍道間の小蒸気での所要時間は、1時間半ほどだったようです。

宍道の「一旗亭」で、松江中学の校長など、見送りのために付き添ってきた人たちと昼食をとり、その後、人力車に乗って広島に向かいます。当時は、松江までは鉄道は開業しておらず、また、鳥取の境港から、汽船で下関に向かう手段もあったのですが、運行が不定期で、いつ出発できるか不明だったので、中国山地を越える手段が選ばれたようです。一行は、現在の国道54号にほぼ沿ったルートをたどったようですが、この道路は、山陰と山陽を結ぶ要路として道路改修が進められた結果、明治22年には、人力車の通行が可能となっていました。

途中、加茂の柳橋の近くにあった茶屋で、人力車は交代します。この茶屋は、休憩の場所でもありました。この茶屋でハーンは、好物のそばを食べたそうです。宍道から加茂までの距離は、2里40間、約8キロあります。人力車の時速を、仮に毎時8kmとすると、少なくとも、1時間は揺られていたこととなります。

この日の宿は、掛合の上町にあった旅館「竹下屋」でした。加茂から掛合までの距離は、7里、27.5km。人力車では、少なくとも3時間半はかかります。加茂を、お昼もかなり過ぎた頃に出発したとしたら、竹下屋に到着したのは、18、19時だったことでしょう。今年11月15日の、松江の、日の入り時刻は、17:02ですから、宿に到着する前の数時間は、暗いです。山の中の暗く寂しい道を、ただひたすら人力車に揺られるのは、どんな心持がしたのでしょうか。

竹下屋で一泊して、翌日掛合を出発し、その日は広島の大野野で一泊します。その後、広島から呉に向かい、そこで汽船に乗り込み、門司に上陸。汽車に乗り換え、11月19日の夕方、熊本の春日駅に到着します。4泊5日の旅行でした。

さて、以上のことを参考にして、当時の、松江から龍頭が滝までの、所要時間を計算してみます。掛合に至るまでには、蒸気船に1時間半、人力車で4時間半、6時間は必要です。さらに、掛合の西側から、ちょうど掛合診療所の上の辺りから、滝谷に通じる「迫道」と呼ばれる近道がありました。この山路をたどり、滝谷川を遡ること1時間ほど歩いて、ようやく龍頭が滝に到着です。

このように、松江から龍頭が滝は、片道一日かかる遥かな地でした。ですから、ほかの町から訪れる観光客も、ごく僅かだったことでしょう。この遠い場所に、容易に行けるようになるには、自家用車の普及が必要ですが、それは、もう少し後のこととなりますね。



#### 【参考文献】

- ・1990. 11. 22 付け山陰中央新報
- ・田部隆次『小泉八雲 ラフカディオ・ハーン』
- ・小泉八雲『出雲への旅日記』
- ・島根県飯石郡掛合村 編『島根県飯石郡掛合村史』, 掛合村, 大正5. 国立国会図書館デジタルコレクション  
<https://dl.ndl.go.jp/pid/944952> (参照 2026-02-06)